



国語科の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【育成を目指す資質能力の確認】 事前に、本時の学習を通して児童が「何ができるようになるか」を確認しているか。
- ☐ 【学習内容の意識化】 本時の学習内容が、単元の終末にどうつながるのか意識できるようにしているか。
- ☐ 【板書の工夫】 思考の流れを残す板書をしており、本時の振り返りで参考にさせているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【時間の確保】 児童が、自分の意見や考えを客観的に捉えられるように、他者の意見や考えと比較できる時間を確保しているか。
- ☐ 【視点の焦点化】 話し合いの視点を焦点化して、目的に合った話し合いになるようにしているか。
- ☐ 【資料の活用】 考えの根拠となる資料を用意し、活用できるようにしているか。(叙述、図表等)

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【言語への自覚化】 児童の発言や記述に対して、「なぜ?」「どうして?」と切り返す等、思考の言語化を促し、「言葉への自覚」を高めるようにしているか。
- ☐ 【言葉の捉え直し】 文や言葉を辞書的な意味で捉えた上で、もう一度叙述に戻って捉え直したり、文脈や場面に照らし合わせながら問い直したりしているか。
- ☐ 【日常生活への関連付け】 一単位時間、単元を通して学習したことが、他教科や日常生活に生きるように意図的、具体的に、関連付けを図っているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



社会科の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4 更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【資料提示の工夫】 具体的な事実を基に疑問をもたせ、問いや課題につながるような資料を提示しているか。
- ☐ 【学習計画の工夫】 学習問題（課題）について、学習方法やゴールをイメージさせるなど児童の思考の流れに沿った学習計画を立てているか。
- ☐ 【振り返りの工夫】 自分の考えの深まりを実感できるように、単元の終わりに、単元全体の学びを振り返る活動を設定しているか。（課題についての予想や仮設と自分のまとめを比較するなど）

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【話合いの設定】 調べたことを整理したり、関連付けたりする話合いの場面を設定しているか。
- ☐ 【学習内容の文章化】 まとめた文章や地図、年表を基に、これまでの学習を総合して文章や関係図等で説明するよう促しているか。
- ☐ 【必要性の意識化】 児童が、対話的に学習する活動に必要性を感じるようにしているか。（例えば、多様な考えを持ち寄ったり、力を合わせて課題を解決したりするなど。）

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【「見方・考え方」を働かせるための支援】 「空間」「時間」「相互関係」等の視点に着目したり、比較や関連付けたりできるような資料の加工や提示の仕方を工夫しているか。
- ☐ 【知識の獲得】 児童が調べて得た具体的な事実を結び付けて「概念等に関わる知識」（特色や意味を説明できる知識）を獲得させているか。
- ☐ 【板書の工夫】 学習した内容を振り返って考えたり、まとめたりすることができるよう、キーワードを位置付けるなど板書を構造化しているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



算数科の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【課題設定の工夫】 課題は教師が提示するのではなく、既習などから児童とのやり取りを通して設定し、課題解決の必要感をもたせているか。
- ☐ 【見通しの共有】 方法の見通しや答えの見通し、期待の見通しをもつことができるようにしているか。また、見通しを共有し全員が課題に取り組むことができるようにしているか。
- ☐ 【振り返りの実施】 ノートや自己評価カードに、気付いたこと・分かったこと、学習してみたいこと、思考の変化などを記録できるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【個人での解決】 日常生活の場面を想起させたり、具体例や具体物等を用いて試行錯誤させたりすることで、全員が自分なりの考えをもつことができるようにしているか。
- ☐ 【言語活動の充実】 図(絵)、式、表、グラフ、言葉を関連付けながら、表現ができるようにしているか。思考過程が見える発表をさせているか。
- ☐ 【発表方法の工夫】 他者の考えを発表させたり、発表内容への付け足しや質問をする場面を設定したりすることで、他者の考えを理解し、思考を深めることができるようにしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【板書の工夫】 視点(共通点や相違点など)を与え、授業で働かせる「見方・考え方」のキーワードを板書し、意識させるようにしているか。
- ☐ 【児童の発言の活用】 児童の発言をつなげたり、児童の発言に問い返したりすることで思考を広げているか。
- ☐ 【統合的・発展的な思考】 関連付けて考える、適用範囲を広げる、条件を変えるなど統合的・発展的に考えることができるようにしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



理科の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していかうとすること

- ☐ 【課題設定の工夫】 課題設定の際に、児童とやりとりしながら、観察や実験から何を見いだせばよいのかを児童が自覚できるようにしているか。
- ☐ 【根拠のある予想・仮説】 既習の内容や生活体験を基にした根拠のある予想や仮説となるようにしているか。
- ☐ 【適切な時間確保】 まとめと振り返りの時間をとり、自分の言葉で書かせているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【場や時間の確保】 仮説を立てる、実験から得られたデータを整理する、考察するなどの場面で、個で思考する場面や時間を十分確保しているか。
- ☐ 【話し合いの焦点化】 話し合いの目的・視点を示しているか。(共通点、差違点、結果・根拠、妥当性、気づき、新たな疑問等)
- ☐ 【比較場面の設定】 他者の考えを聞く時間をとり、自分の考えと比較・検討させているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【見方・考え方を働かせるための支援】 その単元、その内容を学習するのにどのような「見方・考え方」を働かせればよいかを授業者自身が明確に把握しているか。また、本時で働かせる理科の見方・考え方をあらかじめ確認しているか。
- ☐ 【日常との関連】 学習したことを日常生活との関わりの中で捉え直すことができるようにしているか。
- ☐ 【他教科との関連】 他教科との関連を図り、理科の学習の有用性を実感できるようにしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



生活科の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【実態の把握】 事前に、生活経験や幼児期の学びの状況など、児童の実態を適切に把握し課題設定に生かすようにしているか。
- ☐ 【学習への意識づけ】 相手意識や目的意識をもって学習できるようにしているか。
- ☐ 【協働的な学習】 ペアやグループで協力して活動し、感動や気付きを共有しながら学習できるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【考えをもつための支援】 児童の発言や様子を丁寧に見取り、問いかけたり共感したりするなど考えをもつための支援を適切に行っているか。
- ☐ 【交流機会の設定】 伝え合い交流する機会を設け、無自覚だった気付きを自覚したり、個別の気付きを関連付けたり、自分への気付きを得ることができるようにしているか。
- ☐ 【思考の可視化】 付箋や思考ツールなどを活用して思考を可視化し、一人一人の考えを共有したり整理したりできるようにしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【思考過程の工夫】 思いや願いを実現していく過程では、自分との関わりで対象を捉えることができるようにしているか。
- ☐ 【学習形態の工夫】 見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を設定しているか。
- ☐ 【振り返りの工夫】 学習を振り返り、自分のよさや可能性に気付かせるようにしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



音楽科の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【共通事項の確認】 事前に、その題材において児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を明確に設定し、授業展開を考えているか。
- ☐ 【変容の価値付け】 児童の表現の変容を捉えて、その良さや表現の工夫を伝えたりしながら価値付け全体で共有しているか。
- ☐ 【学習の自覚化】 ワークシート等を活用しながら、学んだことの意味や価値を自覚できるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【活動の設定】 音や音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させる活動を設定しているか。
- ☐ 【目的の理解】 何のために対話するのか、その目的を児童、教師が理解しているか。
- ☐ 【思考の深化】 他者の感じたことや思考したことを、必要に応じて音で確認したり、実際に表現しながら試行錯誤したりする活動が設定されているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【見方・考え方の明確化】 本時で働かせるべき「見方・考え方」を教師自身が整理し、明確にしているか。
- ☐ 【児童との対話】 授業の中での児童の発言を取り上げ共有したり、問い返しや切り返しをしたりしているか。
- ☐ 【活動内容の工夫】 音楽を形づくっている要素を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取る活動が設定されているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



図画工作科の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【題材名設定の工夫】 学習内容やねらい、「何を使って、どのような活動をするのか」がイメージできるような題材名の工夫をしているか。
- ☐ 【提案の工夫と支援】 製作の手順や活動の流れ、安全指導を分かりやすく説明・提示し、見通しと安心感を与えているか。
- ☐ 【ICTの活用】 ICT等を活用し、活動の過程を記録（写真や動画）し、振り返りの場面で活用しているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【児童との対話】 「作品は子供自身である」という思いを基に、児童が何をイメージし、表現しようとしているかを、教師が「聞き手」として受容しているか。
- ☐ 【鑑賞の視点の明確化】 鑑賞の活動では、〔共通事項〕を基にした視点を与え、本時のねらいを達成するための対話となるような工夫をしているか。
- ☐ 【考えを広げ深めるための支援】 児童相互の学び合いを大切にし、活動中の動線等の工夫から自然に学び合える教室環境を整えているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【〔共通事項〕を踏まえた支援】 学習指導要領の〔共通事項〕を踏まえて、感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりする場を効果的に設定しているか。
- ☐ 【発問等の工夫】 児童がつくりだした意味や価値を再確認できる声掛けや、次時の学びにつなげるような振り返りを実施しているか。
- ☐ 【支援方法の工夫】 知識や技能の一方的な指導ではなく、一人一人の感性を大切にした授業展開を考え、個の発想が認められる場の設定をしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



体育科の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【思いに沿った課題設定】 学習前の興味や関心を出発点としながら、児童の思いに沿った必要感、目的意識が明確な学習課題を設定しているか。
- ☐ 【主運動へのつながり】 感覚づくりの運動は、主運動につながる基礎的・基本的な運動（みんなができる運動）を選び、運動量を確保しながら、丁寧に取り組むことで質の向上が図れているか。目的意識をもち、楽しみながら取り組み、回数や時間などの伸びが実感できる活動となっているか。
- ☐ 【次時への意欲喚起】 本時のねらいに沿って学習活動を全体で振り返り、評価し、まとめをする時間を確保できているか。その中で、自己の次の課題に気付かせ、次時への意欲喚起を図っているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【発問の工夫】 本時の学習課題や個々の課題に迫る思考を促す発問、考える必要性や価値のある発問をしているか。
- ☐ 【試行錯誤場面の確保】 試行錯誤を繰り返す機会（運動学習場面）を十分に確保しているか。
- ☐ 【解決策発見の支援】 ルールの工夫や簡易化、動きを観察するポイントを絞った掲示や場の設定、チームで相談し合う観点の焦点化等、必然性のある対話を実現するような工夫があるか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【育みたい資質・能力の意識】 指導や支援、評価が技能だけに偏ることなく、常に単元の中での本時の位置付けや、本時に特に育みたい資質・能力を意識して指導・支援しているか。
- ☐ 【既習事項の活用】 「どうすればもっと勝てるのか」等を常に考えさせ、既習の課題解決の方法を活かして主体的に学習できるように指導・支援しているか。
- ☐ 【多様な関わり方との関連付け】 「すること」だけでなく、「みること」「支えること」「知ること」など、児童の適性に応じて、運動との多様な関わり方と関連付けて指導・支援しているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



家庭科・家庭分野の「授業振り返りシート」(小・中学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【課題設定の工夫】 家族・家庭や地域における生活を見つめることを通して、日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定することができるようになっているか。
- ☐ 【目的の明確化】 何のために学習するのか、その目的を明確にすることによって、児童生徒が学ぶ意義を自覚し、主体的に学習に取り組むことができるようになっているか。
- ☐ 【学習意欲の涵養】 「なぜ、そのようにするのだろう？」と疑問をもち、試行錯誤をする活動を通して、知識及び技能の習得に粘り強く取り組むことができるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【効果的な場面の設定】 題材の中で、ねらいにせまるために、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定すると効果的か検討し、設定しているか。
- ☐ 【思考の可視化】 グループや互いの考えをホワイトボードや1人1台端末の活用により可視化して整理し、それらを集約・分類するなどして、比較できるようにしているか。
- ☐ 【考えの交流】 よいところやアドバイスなどを交換し合い、改善策につなげるような話し合い活動ができるようにしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【日常との関連】 児童生徒が、「見方・考え方」の視点から、日常生活の中から問題を見だし、課題を設定する力を身に付けることができるようにしているか。
- ☐ 【発問の工夫】 「なぜ、そのようにするのか」など、「見方・考え方」を引き出したり、鍛えたりする発問を工夫し、意図的に行うことで、児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら思考できるようにしているか。
- ☐ 【教室環境や資料提供の工夫】 児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら思考を深めることができるよう、教室環境や教材・教具の工夫を図っているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小・中学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会)

県小・中学校教育課程編成要領 (県教育委員会)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小・中学校教育課程実践事例 (県教育委員会)



外国語活動の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【学習課題の設定】 事前に、本時のねらいに即して、コミュニケーションの目的・場面・状況等を明確にした学習課題を設定しているか。
- ☐ 【自力解決の支援】 言語活動に必要とされる語彙は事前に慣れ親しませ、自力解決をしやすいさせているか。
- ☐ 【実践力の涵養】 分からない表現であっても類推させる活動を普段から取り入れているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【活動場面の工夫】 言語活動を工夫し、相手と互いのことを伝え合いたくなるような課題を設定しているか。
- ☐ 【資料等の活用】 自分自身の考えに根拠をもてるよう、必要に応じて具体物、写真、資料等を活用するよう指導しているか。
- ☐ 【温かい学級づくり】 他者と意見を尊重し合える雰囲気を醸成し、自分の意見を自由に表現できるようにしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【対話対象の意識化】 コミュニケーションの相手について意識させ、伝えたいことは何なのか、どのような言い方をすれば分かりやすく伝えることができるかなど、配慮を促しているか。
- ☐ 【児童との対話】 教師と児童との会話活動を通して、児童の発言を簡単な表現で言い換えて確認したり、切り返しの質問を行ったりしているか。
- ☐ 【気付きの促し】 日本語と英語を比較し、似ている点や異なる点について、気付きを促しているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



外国語科の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【ねらいと課題の設定】 事前に、単元の到達度を見通し、1時間ごとのねらいと学習課題を設定しているか。
- ☐ 【見通しの提示】 児童やALTとのやり取りを通して目標となる表現を例示し、本時の目指すべき姿をイメージさせているか。
- ☐ 【振り返りの支援】 本時の学習を振り返る視点を提示した上で、振り返りを行い、次時への意欲や期待を高めているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【活動場面の工夫】 言語活動を行う目的や相手を意識させ、必然性のある活動を行っているか。
- ☐ 【温かい学級づくり】 相手の考えに対して反応したり、感想を言ったりできるような他者の意見を尊重し合える雰囲気醸成し、自分の考えや気持ちを自由に表現できるようにしているか。
- ☐ 【形態の工夫】 表現することが得意、不得意という個人差を考慮し、個人の活動から、ペア、グループ、一斉という形態の工夫を状況に合わせて設定しているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【対話対象の意識化】 コミュニケーションをする相手のことを意識させ、伝えたいことは何なのか、どのような言い方をすれば分かりやすく伝えることができるのかなど、考えさせているか。
- ☐ 【実践力の涵養】 目的、場面、状況に応じて、思考力、判断力、表現力を発揮する中で、既習事項の知識や技能をつなぎ合わせ、コミュニケーションを図っていく課題を設定しているか。
- ☐ 【児童との対話】 教師と児童の会話活動を通して、児童の発言を簡単な表現で言い換えて確認したり、切り返しの質問を行ったりしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



特別の教科 道徳の「授業振り返りシート」(小・中学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善」のために

目標に示された学習活動によって児童生徒が道徳性(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度)を養うための指導(道徳科の特質を生かした授業改善)を行うことが重要である。(=「考え、議論する道徳」)

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- 【適切な課題設定】 主題に対して児童生徒が興味・関心を高め、ねらいとする道徳的価値に関わる問題意識や学習課題をもたせているか。
※学習課題については、明文化しないこともある。
- 【多様性の理解】 道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さもあることや道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではなく、多様であることを理解させているか。
- 【思考を深める場の設定】 教材を通して考えたことをもとに、これまでの自分の経験やその時の感じ方・考え方と照らし合わせながら考え、自己理解を深め、自己の(人間としての)生き方についての考え(よりよく生きていくことへの思いや願い)を深められるようにしているか。
※今後の生き方についての決意表明を求めるものではない。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- 【教具の工夫】 考えを視覚化するツール(心情円盤等)を使って多様な意見を引き出しているか。
- 【思考を深める工夫】 教材や体験などをもとに考えたことや感じたことを共有させたり、異なる視点から多面的・多角的に(様々な見方や考え方で)考え、議論させたりしているか。
- 【発問・発言場面の工夫】 本音を引き出す効果的な発問の工夫や意図的指名、少人数による話し合いの場の工夫をしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- 【効果を踏まえた方法の選択】 発達段階や発達の特性、指導内容等に応じて、効果的な指導方法を選択して工夫しているか。(教材提示、発問、話し合い、書く活動、動作化や役割演技等の表現方法、板書、説話等)
- 【活動の工夫】 様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで(広い視野から)多面的・多角的に捉え、自己の(人間としての)生き方について考えられるような学習活動を設定しているか。

※「主体的な学び」や「対話的な学び」は簡単に切り離し考えられるものではなく、お互いに関わり合いながら展開され、「深い学び」になり、教師の明確な指導の下に、児童生徒は自己の生き方(人間としての生き方)についての考えを深め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていくことにつながります。



総合的な学習の時間の「授業振り返りシート」(小学校)



北部教育事務所 (R7.4更新)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【学習への意欲付け】 事前に学習の見通しをもつことや相手意識・目的意識を念頭に、課題を設定し課題意識をもっているか。
- ☐ 【対象に迫る支援】 対象に直接触れる体験活動を通して、児童自ら課題に気付くことができるようにしているか。
- ☐ 【変容の自覚】 振り返りの時間を確保し、学習したことの意義や自己の考えの変容を自覚できるようにしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【教材の工夫】 考えるための技法として思考ツールなどを活用し、課題解決に向けて考えを広げたり、整理したりできるようにしているか。
- ☐ 【活動の双方向化】 他者との協働的な活動を取り入れたり、対象となる人々と相互に関わったりして、双方向性のある活動になっているか。
- ☐ 【情報の収集】 より多く、確かな情報を収集するために、他者への説明や対話をする活動を取り入れているか。また、ICT 機器を効果的に活用しているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【探究的な学習】 探究的な学習とするために、学習過程を【①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現】とし、この過程が何度も繰り返されているか。
- ☐ 【考えるための技法】 収集した情報を整理したり、多様な方法（比較する、分類する、関連付ける、順序付ける、理由付ける等）で分析したりできるようにしているか。
- ☐ 【教科横断的な学習】 児童が各教科等で身に付けた「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を発揮できるようにしているか。

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則 (県教育委員会 H29.3)

県小学校教育課程指導・評価資料 (県教育委員会 R2.3)

県小学校教育課程編成要領 (県教育委員会 H30.3)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について (国立教育政策研究所 R2.6)

県小学校教育課程実践事例 (県教育委員会 R4.3)



学級活動の「授業振り返りシート」（小・中学校）



北部教育事務所（R7.4更新）

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて

「何ができるようになるか」という児童に必要な資質・能力を育成するためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく授業改善が重要である。

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【議題等の事前周知】 事前に議題（題材）や提案理由、決まっていること、話合いの柱等を知らせ、イメージの共有を図った上で、話合いに臨めるようにしているか。
- ☐ 【問題の可視化】 事前にアンケート等を実施し、学級の実態を示すなど可視化することを通して本時の学習内容に対する問題意識を高めているか。
- ☐ 【活動の振り返り】 事前・本時（話合い）・事後の一連の活動を踏まえ、振り返りを行っているか。また、自己評価や相互評価を行う時間を確保しているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【話合いの工夫】 話合いの進め方やまとめ方を示しているか。
また、意見をしっかり聞いたり、つなげて発言したりできるようにしているか
- ☐ 【場の設定の工夫】 解決方法等の話合いでは、意図的にグループ活動を設定したり、グループで話し合ったことを学級全体で共有したりしているか。
- ☐ 【多様性の涵養】 話合いを通して、他者の考えに触れたり、自分の考えを広げたりすることで、よりよい合意形成や意思決定をすることができるようにしているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【板書の工夫】 話合いの学習過程を黒板に掲示しているか。また、意見を比べやすくするために短冊を活用したり、見出しを用意して意見を分類したりしているか。
- ☐ 【話合いの充実】 話し合いの目的を明確にしているか。また、それぞれの意見のよさや違いを明確にさせたり、他者の意見を踏まえた関連発言を促したりしているか。
- ☐ 【実生活での活用】 学んだことを現在及び将来の生活改善や集団づくりに実際にいかすことができるようにしているか

※主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ここにある授業者の視点による改善を行うだけでよいことを示しているのではありません。授業者の視点と学習者の視点は、双方を往還することが必要です。

《参考資料》 主体的・対話的で深い学びの実現 6則（県教育委員会 H29.3）

県小・中学校教育課程指導・評価資料（県教育委員会）

県小・中学校教育課程編成要領（県教育委員会）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（国立教育政策研究所 R2.6）

県小・中学校教育課程実践事例（県教育委員会）



特別支援教育の「授業振り返りシート」(小・中学校)



北部教育事務所 (R7.4 更新)

「主体的な学び」

学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

- ☐ 【環境設定】 学習に向かいやすい環境設定ができているか。(自発的な学びを促す)
- ☐ 【見通し】 活動の見通しをもてるよう手がかりとなるものを提示しているか。
(目標、流れ、内容、活動時間等)
- ☐ 【意欲付け】 場面に合った意欲を高める工夫をしているか。
(言葉かけ・頑張りシール・即時評価等)
- ☐ 【実態に合わせた指導】 児童生徒の実態に合わせて指導しているか。
(体験的な活動・スモールステップ・教材教具等)
- ☐ 【振り返り】 振り返りの時間を確保し、次時につなげる工夫をしているか。

「対話的な学び」

学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

- ☐ 【自分の考えを整理する工夫】 自分の気持ちや考えを整理し、表現する工夫があるか。(自己との対話)
- ☐ 【グルーピング(役割)】 グルーピングが工夫され、個々の役割が明確になっているか。
- ☐ 【情報のやりとり】 情報を得たり、考えや思いを伝えたりするためのツールを提示しているか。
- ☐ 【①活動を共に楽しむ場】 一緒に活動したり、表現したりすることを楽しむ場面の設定があるか。
- ☐ 【②友達・教師からの評価の場】 友達や教師からの評価の場面の設定はあるか。(即時評価、相互評価)
- ☐ 【③自分の考えを再形成する場】 先哲の考え方や友達の意見等を手がかりに、自分の考えを再形成する時間を設定しているか。

「深い学び」

見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

- ☐ 【試行錯誤】 課題解決に向かって試行錯誤する工夫があるか。
- ☐ 【教科の見方・考え方
とのつながり】 教科の見方・考え方等を、自分の経験や今までの学びと結び付けられるように指導しているか。
- ☐ 【学ぶことの楽しさへの気付き】 「学んでよかった」「楽しかった」と学びの楽しさや価値、意義に気付けるような工夫があるか。
- ☐ 【自己選択・自己決定】 児童生徒が自分で考え、自己選択や自己決定ができる場があるか。
- ☐ 【学びの活用】 今まで学んだことを活用できる場が設定されているか。
- ☐ 【生活に生かす工夫】 学んだことを今後の生活や将来に生かすことを意識出来るよう工夫しているか。